

2023年度 第2回福祉職域管理栄養士・ 栄養士育成のための全国リーダー研修会

日時：2024年2月23日（祝・金）9：30～12：50

場所：オンライン（Zoom）

（公社）日本栄養士会福祉職域担当理事元家玲子氏、（公社）日本栄養士会職域統括事業部部長原純也氏より開会の挨拶があった。

【議題Ⅰ】

2024年福祉職域ビジョン「地域共生社会において、誰もが健康で豊かな生活を送ることができるように食を通じて支援する」を達成するための、ロジックモデルが示され、2026年度のアウトカムが設定された。1つ目は、切れ目ない食支援の体制を確立し、「誰一人取り残さない」食環境を構築することで、今回は以下のような数値目標が設定された。高齢分野は、栄養情報連携実施率80%、障害分野は栄養情報連携実施率25%、児童分野は施設等の管理栄養士・栄養士の配置70%。2つ目は、3分野それぞれの特性を理解し、個別支援を行うことで、数値目標は、高齢分野は栄養マネジメント強化加算60%算定、栄養改善加算10%算定、障害分野は栄養マネジメント加算70%算定、栄養改善加算10%算定。尚、児童分野については、施設等での栄養相談の実施を目標と設定された。アウトカムにつながる2024年度からの具体的な事業内容、アウトプット活動も示された。「栄養」を通じて人々の幸せを実現するという管理栄養士・栄養士の本来の仕事が、忙しさと十分にできていない状況があるという不満を共有し、後ろ向きの方たちをリードすべきである。

【議題Ⅱ】

2023年度事業報告（案）について、議題Ⅲは、2024年度事業計画（案）についてであった。研修会は、e-ラーニングに移行しているものが多いので、受講の声掛けが必要であるため来年度は事例収集の協力をお願いしたい。議題Ⅳは、職域理事選任決議分野候補者および事業推進委員会委員の選出について、一同承認された。その他として、会員数報告があり、福祉は会員数減少が顕著であるため会員増対策に本腰を入れたい。福祉施設数と栄養士就業者数についても触れ、今後児童施設への栄養士配置を求めていきたいとのことであった。

【報告】

来年度推進委員をひきうけていただく、石川

県栄養士の土中真紀子氏より、能登半島地震の状況について報告いただいた。一番大変なのは、地域のお年寄りが病院、施設に新規入居できなくなっている状態にあるとのことだった。

【講演】

厚生労働省老健局老人保健課介護予防栄養調整官、増田利隆氏に「2024年介護報酬改定（栄養関連）の概要について」ご講演いただいた。栄養ケアマネジメント強化加算は3割程度の算定で、口腔・栄養スクリーニング加算算定もまだまだ少ない状況である。業務過多にならないように、現在様式を詰めている途中である。居宅療養管理指導の報酬が上がった今回は医療、介護同時改定だったので、情報共有、連携に関する加算が強化された。現状把握の上、算定条件等も改善されたので、算定増に期待しているとのこと。

【グループワーク】

課題1は加算算定率アップについて。算定収入シミュレーションを施設上層部に出し、加算を取ることで施設に利益があることを説明し、加算の基本知識、算定の方法等研修を医療と共催で行っていく必要がある。オープンチャットを開設し、会員からの質問をいつでも受け入れる体制を築いておく。

課題2は、会員増対策について。老協協など、他団体と共同の勉強会をすることで会員増を図る。加算算定公式LINEや、オープンチャットの開設、養成校との連携、会員、非会員で講習費に差を設け、入会いただけたら、その場で講習費を返金するところもあった。SNS発信も有効との意見もあった。

総括として、高齢分野は介護報酬改定説明会をし、しっかりフォローアップすること、障がい分野は横のつながりを構築し、勉強し合うこと、児童分野の研修参加は会員外でも多いとのことであった。日本栄養士会より、栄養マネジメントができる体制づくりができるように政策活動を進める。今後は事例、エビデンスを積み上げて、改善につなげていきたい。顔が見える関係の構築がすべてのベースになる、という共通認識を得た。

（文責 福祉 阿部茉莉）